

第 11 回 福島県失語症者のつどい

平成 30 年 10 月 6 日、ホテルリステル猪苗代を会場に第 11 回福島県失語症者のつどいが開催されました。今年は県内 5 団体 93 名（スタッフ 31 名、学生ボランティア 21 名、医師 1 名）に加えて、県外の青森・岩手・東京・埼玉・新潟から 50 名、合計 143 名が参加されました。また、日本失語症協議会副理事長の園田尚美先生にもご出席頂きました。

初めに会津失語症友の会会長の秋本武広様より開会の挨拶を頂き、つどいの幕が開きました。その後、会津失語症友の会顧問（竹田総合病院神経内科科長）石田義則先生より歓迎の言葉を頂きました。各団体の紹介は、発表時間の限られた中で日頃の活動や思いを発表して頂きました。報告内容も友の会を立ち上げた方、参加者全員で発表する団体等、活気にあふれるもので皆さまからはあたたかい拍手や掛け声が聞かれておりました。

休憩・体操を挟んだ後は、起き上がり小法師の顔付け体験を行いました。今回は各テーブルを県内外様々な地域の方と交流できる様に設定しました。最初は参加者の皆様がコミュニケーションを取れるのか不安でしたが、各テーブルで楽しそうに会話や記念撮影をしている様子を拝見し、とても初対面とは思えない盛り上がりでした。その後、竹田総合病院スタッフと会津失語症友の会の方と一緒にハンドベルで「荒城の月」を演奏しました。作詞の土井晩翠が会津の鶴ヶ城を思いながら書いたと言われるこの歌を説明しながら演奏すると参加者の方々は聞き入っておられました。最後に、石田先生指揮のもと、「ふるさと」を合唱し、皆様笑顔の中、失語症者のつどいが終了しました。

交流する時間や人数は限られておりましたが、各テーブルに何うと参加者の皆様一人一人が自発的に声をかけ楽しそうに話されていた事は実行委員としても嬉しく感じました。会場を後にして、帰りのバスの待ち時間も各団体で写真撮影をしたり 1 分 1 秒無駄にせず交流されておりました。本当に 2 時間があっという間に感じられました。

その後の懇親会にも 70 名（県外 26 名、県内 44 名）が参加され、そこでも会津の地酒に舌つづみを打ちながら交流する事が出来ました。最後に県外を代表して岩手のデイサービス言葉のかけ橋 ST 佐藤誠一先生より、交流会を続けることの大切さをお話し頂き、いわき友の会コスモス ST 相澤悟先生より、来年度も県外との交流を続けていきたいと思いますとの発声でお開きとなりました。

今回のつどいでは私自身初めての運営で、準備の段階から沢山の先生方にご迷惑をお掛けしたかと思いますが、皆様の協力の下、会を成立する事が出来ました。県外の方々のお見送りした際に「楽しかった、またやろう」等たくさん声をかけて頂いた時、やって良かったと心から感じる事が出来ました。様々な年齢・性別・地域の方々とお話をさせて頂く中で、病院・施設を出た時にその方々が地域でどの様に生活していけばよいのか、直接お話しできた事は大変勉強になりました。今回のつどいで出来た繋がりを大切に、地域で継続した生活を送るため、私たち言語聴覚士が当事者の方々と一緒に考えて、行動して

いく事その方々の社会支援にも繋がると感じました。

最後になりますが、つどいを通してご協力頂いた言語聴覚士の皆様に感謝申し上げます。
また、次回の失語症者のつどいで皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

第 11 回福島県失語症者のつどい 実行委員長
竹田綜合病院 河野 圭朗



